

冬鳥の到来 - ジョウビタキ -

季節もすっかり冬。陶史の森では、夏に見られたツバメやコサメビタキなど夏鳥の姿が見られなくなり、ジョウビタキなど冬鳥の姿が観察できるようになりました。

ジョウビタキは左右の翼に白い部分があり、まるで和服の“紋付き”を着ているように見えるので、“モンツキドリ”ともいわれます。大きさはスズメと同じぐらいです。冬になるとサハリンや中国西部から日本にやってきます。陶史の森では、11月初旬くらいから3月まで見かけます。この野鳥は警戒心が比較的 low、人の気配がしてもあまり動ぜず、かなり近付かないと逃げません。

オスは、頭が銀白色、顔は黒色、腹と胸が橙色と、とってもカラフルです。一方メスは、体全体が灰色かかった茶褐色と地味な感じ。[ジョウビタキ]を漢字で書くと「尉火焚」。[尉(じょう)]は銀髪という意味で、「火焚(ひたき)」は、火打石をたたく音ということです。[ヒッ ヒッ] とか [カッ カッ] という鳴き声が、火打石で火をおこす音と似ているから、こんな名前が付いたのでしょう。

11月号では陶史の森の紅葉を紹介し、植物の世界の夏から秋への移り変わりを紹介しました。野鳥の世界でも秋から冬へと季節は確実に移っています。陶史の森で、冬鳥の鳴き声やバードウォッチングを楽しんでみませんか。



ジョウビタキ♂



ジョウビタキ♀

| | |
|---|---|
| 森 | の |
| 日 | 記 |

キノコ教室

10月2日(日)

ウッドドームに集合して講師の先生からきのこの基本的な知識を教してもらった後、陶史の森のあちこちを散策しながらきのこを採集しました。参加者が採集したきのこや先生が持参したきのこについて、「名前」や「食べられるかどうか」など詳しく教えてもらいました。陶史の森には、アマタケやヌメリイクチが多く生えており、どちらも食べられるそうです。晴天が続いて、採集したきのこの量は少なめでしたが、楽しい時間となりました。



教室のご案内

12月

- バードウォッチング(要申込 定員10人)
12月25日(日) 午前9時~11時
冬の野鳥を観察します。(雨天中止)

1月

- バードウォッチング(要申込 定員10人)
1月22日(日) 午前9時~11時30分
冬の野鳥を観察します。(雨天中止)

※冬季は木々の葉っぱが落ちているので、野鳥を観察するベストシーズンです。ネイチャーセンターでは、双眼鏡を貸し出しています。気軽に声を掛けてください。

※新型コロナウイルスの感染状況により中止になる場合があります。

陶史の森は自然環境保護地域です。動植物や石などは絶対に採らないでください。また、ペットの同伴はご遠慮ください。